

2024.4

No.41

長崎県立大学佐世保校附属図書館

図書館だより

もくじ

- | | |
|------------------------|----|
| 浅田 和伸 学長 | |
| 「研究」ってこんなに面白い | …1 |
| 竹内 香織 先生 | |
| Atomic Habitsから学ぶ習慣の秘訣 | …2 |
| 大久保 文博 先生 | |
| 東南アジア、貧乏バックパッカー旅行の誘い | …2 |
| 黒木 誉之 先生 | |
| シティズン・ガバナンスの理論的源流 | …3 |
| 魏 蜀楠 先生 | |
| 旅・まちづくり・メディアのお誘い | …3 |
| 図書館利用案内 | …4 |
| 図書館長のコメント・デザイナーよりひとこと | …7 |

「研究」って こんなに面白い

学長 浅田 和伸



◇簡単な「読書記録」のすすめ

子どもの時から本が好きです。今は家の近くの本屋さん、佐世保校とシーボルト校の図書館、それに市の図書館もフル活用しています。去年は282冊読みました。日本教育新聞で書評も書いています。

2004年から読書記録をつけています。きっかけなどは去年の「図書館だより」に書いたので、興味があれば見てください。こういうのは欲張ると長続きしません。基本は書名、著者名、出版年と出版社、読み終わった日づけだけ。図書館に返す本は、手元に残しておきたい部分を抜き書きしてからサヨナラします。この原稿も、そのファイルを見ながら書いています。便利です。忘れても字は消えないし。皆さんもやってみてはどうですか。

乱読に近いですが、比較的多いのは、教育、社会問題、歴史、経営、自然科学、生と死に関わるテーマのものなどです。小説やエッセイ、お笑いなど柔らかめの本も好きです。

◇ゴキブリ、バッタ、ゴリラ、シジュウカラ

研究関係の本でも面白いものがたくさんあります。これにもいろんな種類があって、研究や研究者のことを紹介する本もあれば、研究者が自らの研究について熱く語るようなものもあります。本学の先生方が出された書籍も、既に何冊も読ませていただきました。また、仕事柄、科研費に採択されるコツ、みたいな本も数冊まとめて読んだりもしました。

今回は、研究者自身が書かれた本の中から何冊か紹介します。研究論文と違って、一般の読者向けに易しく書いてくれるし、文章もとても上手だし、ユーモアもたっぷりで、読みやすいものばかりです。研究自体に興味がなくとも、「研究ってこんなに面白いんだ」と楽しんでもらえると思います。ぜひ、このワンダーランドを体験してください。

①『ゴキブリ・マイウェイ この生物に秘められし謎を追う』 (大崎遥花著、2023年、山と溪谷社)

ゴキブリといってもいわゆる害虫はごく一部で、著者が研究されているのはタイワンクチキゴキブリという、全世界の全生物の中で唯一「翅（はね）の食い合い」という珍しい行動が確認されている種類のものです。

文章も内容も抱腹絶倒ですが、さらにびっくりしたのは、挿絵の精緻な点描画も全部自分で書かれていること。絵もプロ級です。

「知見を見つけるまでで終わる人と、見つけた知見に『この知見があるとはつまり、どういうことか』と意義を付加できる人は呼び分けられるべきだと感じている。私自身は、後者を研究者と呼びたいと思う」といった研究者魂にも、私は心を惹かれます。

この方は大学で生物研究部におられたそうで、こんなことも書かれていました。「私がこれまでに出会った変人リストのうち、半分は生物研究部である。そしてもう半分は、研究者である」。う～ん。そうなんですか……。

②『バッタを倒しにアフリカへ』 (前野ウルド浩太郎著、2017年、光文社)

①を読んで、なんだか似てるなと思い出したのがこの本でした。著者は、砂漠に生息するサバクトビバッタの野外生活を観察するため、西アフリカのモーリタニアに乗り込み、サハラ砂漠で野宿の日々を過ごします。「ウルド」は同国の研究所長からもらったミドルネームだそうです。

この本も①と同じで、研究対象も、研究者自身のキャラクターも、研究に取り組む姿勢も、全部が新鮮な驚きの連続でワクワクします。完全にアドベンチャーの世界です。

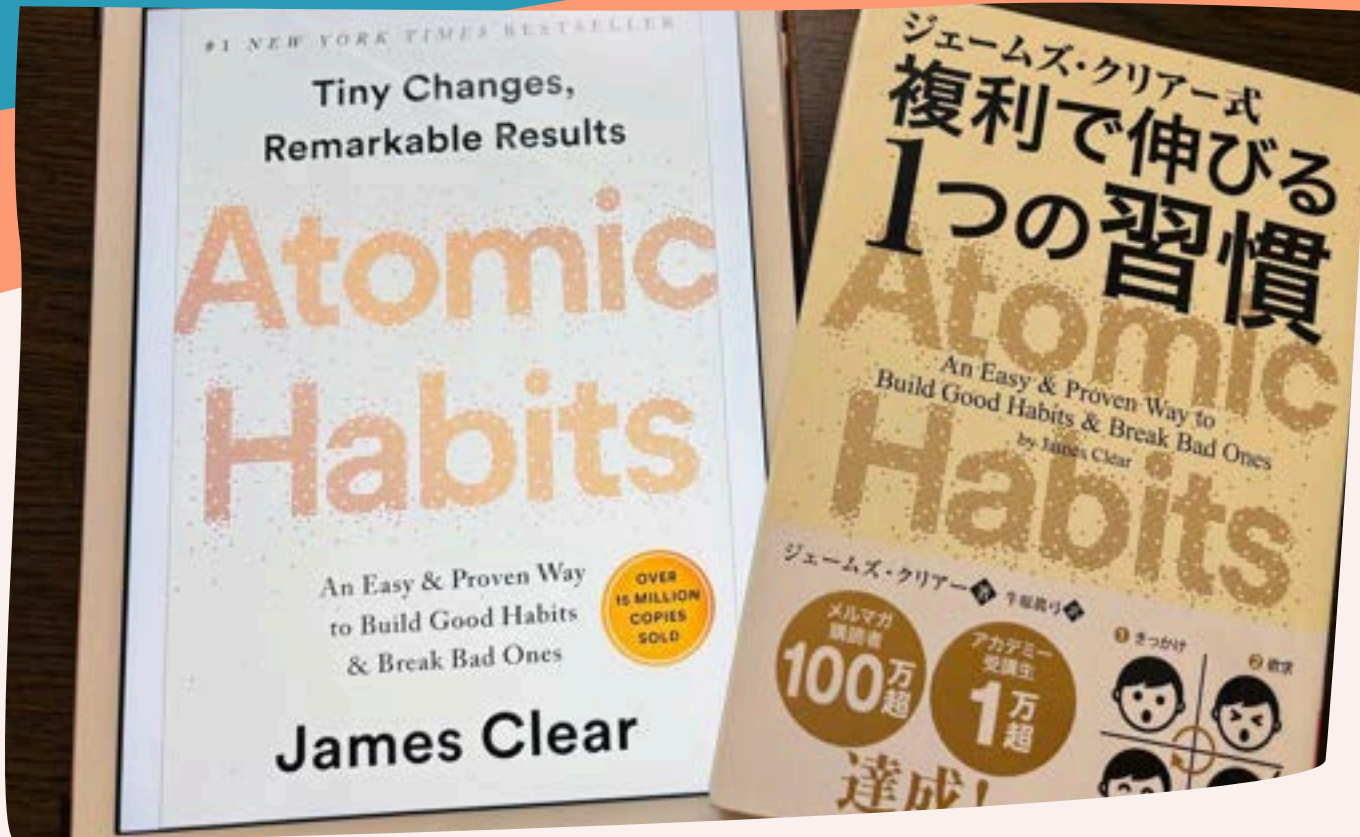
③『動物たちは何をしゃべっているのか?』 (山極寿一、鈴木俊貴著、2023年、集英社)

山極氏はゴリラの著名な研究者。鈴木氏はシジュウカラ（鳥）の鳴き声を研究し、単語を組み合わせで「言葉」を使っていることを世界で初めて突き止めた方です。どちらの研究も、人間の在り方と深くつながるところがあって、いろいろと考えさせられます。もしかすると将来、動物と人とが自動翻訳機を介して話せるようになるかもしれませんね。

教員寄稿

東南アジア、 貧乏バックパッカー旅行の誘い

国際経営学科
大久保 文博



Atomic Habitsから学ぶ 習慣の秘訣

経営学科
竹内 香織

新学期を迎えた4月、皆さんはどんなことに挑戦したいと考えていますか。春から新しい習慣を身につけたいと思っている人もいますでしょう。

そんな方におすすめしたい本は『Atomic Habits』です。この本の著者ジェームズ・クリアー氏によると、習慣化の構築には「きっかけ」「欲求」「反応」「報酬」の4つのステップがあり、このステップを繰り返すことで習慣化されていきます。例えば、買い物をしている時にコーヒーショップからいい匂いがしてきたことがきっかけで、コーヒーが飲みたくなるという欲求が生まれます。その後、コーヒーショップに入ってコーヒーを注文するという具体的な反応が選択され、最終的にはコーヒーを飲んで満足することで報酬を得ることができます。このような経験が積み重なると、買い物のついでにコーヒーショップに立ち寄ってコーヒーを楽しむという習慣が身につきます。この習慣を構築する4つのステップにおいて、どの1つが欠けても習慣化には結びつきません。本書では、このステップが全て満たされるように、4つの法則についても述べられています。

英語学習にも同じ考え方が当てはまります。洋画を観たことがきっかけで、もっと英語力を伸ばしたいと思った時、まず、リスニングや文法の勉強をするなどの具体的な目標を設定します。次にその目標設定をより小さなステップに分解します。その際、大切なのは比較的易しいものから始めることです。例えば、毎日10分のリスニング練習に取り組む、または毎日1つの文法事項について学ぶなど、自分にとって取り組みやすい内容から始めましょう。そして、毎日の英語学習を記録していくことで、学習の進捗を振り返り、達成感や成果を実感することができ、次の学習目標へと繋がっていきます。

最初は小さな行動でも積み重ねて続けていくことで習慣化され、長期的には大きな成長に繋がります。是非『Atomic Habits』を読んで、新しい習慣をこの4月からの新生活に取り入れてみませんか？

入学、進級、誠におめでとうございます。自己紹介をさせて頂くと、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイで構成される大メコン圏（GMS）をフィールドに、経済動向やビジネス動向を研究しています。一番の関心は、開発途上国における開発問題に対してのソーシャルなビジネスアプローチです。マーケティングリサーチ、マーケティング戦略、事業戦略ビジネスにも関連します。

本題ですが、皆さんにオススメしたいのは、「東南アジアでの貧乏バックパッカー旅行」です。私の学生時代は毎年夏と春の長期休暇を利用して、80Lのリュックを背負い、現地の長距離バスや鉄道に乗り、GMS内を旅しました。ミャンマーでの25時間の長距離バス移動では、車内に外国人が私しかおらず、綺麗な夕陽や満天の星空に感動しつつも、多くの時間は暇すぎて「本質とは何なのか、真理と何なのか」、「なぜ人間は存在するのか」、「自分の存在意義は何なのか」等を哲学のように自問自答しました。奇しくも現在に繋がる重要な旅になったわけです。

そして、ゲーテの「人が旅をするのは目的地に到着するためではなく、旅をするためである」を意識したわけではなく、日本（成田）とタイ（バンコク）の往復チケットだけ確保をして、それ以外は「現地判断、調達で旅程を進める」のぶらり旅が中心でした。現地の方々との触れ合いを大切にしました。この貧乏バックパッカー旅行を意識したのは、近藤紘一の『サイゴンから来た妻と娘』、沢木耕太郎の『一号線を北上せよ-ヴェトナム街道編』、梅棹忠夫の『文明の生態史観』、ジョージ・オーウェルの『1984』などを読み、彼らの触れた場所、世界観に自分も触れたいと感じたからです。本当は本の紹介をしたいのですが、原稿の文字数が足りません。きっと親切な図書館の方々は、特集コーナーでこれらの本の解説をしてくれることでしょう。





旅・まちづくり・メディアのお誘い

実践経済学科

魏 蜀楠

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。地域創造学部実践経済学科の魏（WEI）です。現在、大学1年の「教養セミナー」、2年の「交通経済論」そして3年の「地域交通論」の科目を担当しています。ゼミでは交通経済学、交通政策論の学習や、交通まちづくり関連のケーススタディを行い、毎年の秋ごろにゼミ生主導の課外活動も実施してきました。昨年度の「観光列車」に続き、今年度は「交通×観光まちづくり」というテーマで行う予定です。ここで、ゼミ課外活動の事前準備の中で出会った一冊を皆さんにご紹介したいと思います。

観光あるいは旅をすることは、生活の変化を求める人間の基本的欲求を充足するための個々人の行為でありながら、地域社会を活性化させ、新たな文化を育み、人々の生活をより豊かにする力を持っています。また、観光メディアは、この観光行為を促し、行動範囲を広げるためのモビリティや観光情報などのことであり、観光のイメージ構成や観光まちづくりに重要な役割を果たしてきました。

昨年7月、明石書店から出版された『観光が世界をつくる—メディア・身体・リアリティの観光社会学』は、「観光地にならないことを約束できる場所など、もはや地上には残されていない」と唱えます。何故なら、居住地以外のある場所、地域に対するイメージは「身体的に生きられ、物質的に空間化されることで、われわれの生きる近代社会の現実となり、やがて世界そのものとなっていく」からだと解説します。その結果、「観光が世界をつくる」という観点にたどり着き、観光化する現代社会のありのままの姿を描き出しました。

本書は、過度な一般化を避けるため、個別で具体的なメディア表現（映画、小説、音楽、ゲームなど）とそれに関する観光の事例を取り上げ、そこに観察できる「観光化する社会」の生成プロセスを考察し、観光まちづくりの新たな地平を見出しました。旅、まちづくり、メディアに関心を持つ皆さんにお勧めします。

シティズン・ガバナンスの 理論的源流

公共政策学科

黒木 誉之

近年の地域社会は、政策決定や公的サービス生産供給の主体が行政のみという一元的な統治社会（ガバメント）から、その主体が多元的な協治社会（ガバナンス）へと変容してきました。そして今後、市民主導の地域社会であるシティズン・ガバナンスへの変容が期待されています。その理論的源流の一つになるのが、松下圭一（1929-2015年）の『市民自治の憲法理論』（岩波新書・1975年）です。

松下は、法政大学名誉教授であり、日本政治学会理事長のほか日本公共政策学会の初代会長を歴任するとともに、丸山眞男の門下生としても有名な政治学者です。ナショナル・ミニマムに対してシビル・ミニマムを提唱したことでも知られています。その政治学者である松下が、当時の憲法理論を批判的に考察した挑戦の書が『市民自治の憲法理論』です。この書で松下は、憲法や行政法等の代表的な専門書を丁寧にレビューし、国家主権を前提にした「国家統治の憲法理論」「官治型理論」と批判します。例えば、東京大学名誉教授で最高裁判所裁判官も務めた田中二郎は、『新版行政法・上』（全訂第1版・弘文堂・1964年）で「行政法は、支配権者としての国・公共団体等の行政主体とこれに服すべき人民との間の法律関係の定めであることを本則とする」と述べています。そこで松下は、公害問題等に対する市民運動に着目し、国民主権を前提にした「市民自治の憲法理論」「自治型理論」への転換と「分節政治システム」を提唱します。

私は、大学院在籍時、大学図書館でこの書と出会い、1970年代にこのような理論を提唱した研究者がいたことに感動したことを今でも覚えています。この出会いが一つの契機となり、修士論文そして博士論文を完成させることができました。公共政策学科の専門科目である「市民自治論」は、私の博士論文をベースに、市民自治の観点から地球的平和の構築を目指す科目として開講したものです。

松下圭一の『市民自治の憲法理論』が、私だけではなく皆さんにも感動を与え、これからの自治の担い手となる皆さんの“道しるべ”になることを願っています。





図書館利用案内

【開館時間と休館日】

開館時間

- ◆月～金
8:30～22:00
- ◆長期休業中・休講日
9:00～17:00
- ◆土曜日・定期考查中の日曜日
9:00～17:00

休館日

- ◆日曜日
 - ◆祝日
 - ◆入学試験等に伴う学内立入制限日
 - ◆蔵書点検等に必要な期間
 - ◆法で定められた休日、年末年始
 - ◆館長が特に必要があると認めた日
- ※臨時休館日は、図書館掲示板、HP、学内連絡メール等でお知らせします。



【貸出冊数と期間】

	冊数	期間
学生	5冊	2週間
大学院生	20冊	1か月
科目等履修生	3冊	2週間
特別聴講生	5冊	2週間
教員	50冊	6か月
職員	3冊	2週間
学外者	3冊	2週間

【利用者カード】

学生は「学生証」が「図書館を利用するためのカード」となります。
忘れた場合、貸出ができないなど図書館利用が制限されます。



※休業期や卒論用の長期貸出についてはその都度お知らせします。
※指定図書の貸出は3日間です。



※教員には、採用時に利用者カードを発行します。
職員は、図書館利用希望の申し出があれば、利用カードを発行します。

【入退館の方法】

2～4階利用の際には、
入・退館ゲートを通過してください。

- ・入館ゲートは、学生証（利用者カード）の
バーコードを読み取らせるとゲートが開きます。
- ・退館ゲートは、バーを押して退出できます。
※貸出手続きをしていない資料を
持ち出そうとすると、ブザーが鳴ります。



【2階受付カウンター】

本の貸出、返却、延長等
図書館利用に関することは、
2階受付カウンターの係員に
ご相談ください。



あたごん

図書館の
公式キャラクターです！
ヨロシク！！

【館内施設のご案内】

新聞閲覧コーナー・ スラウジングコーナー （1階）

長崎・西日本・朝日・
読売・日経・産経・
Japan Times
を自由に閲覧できます。
ソファでくつろぐこともできます。



ラーニングコモンズ （1階）

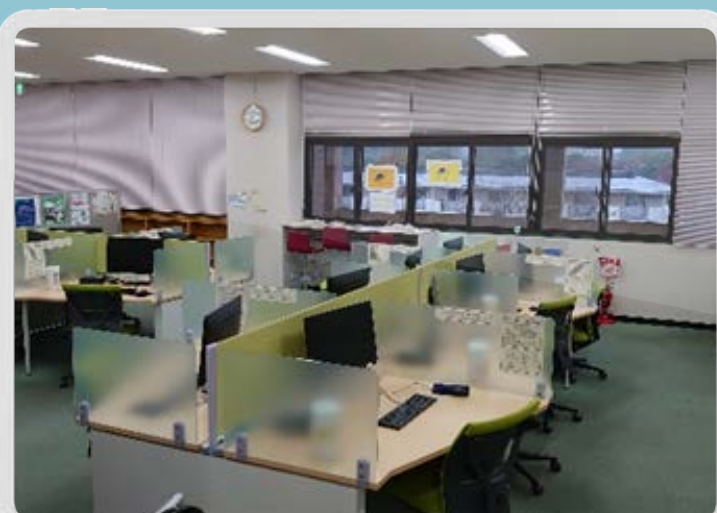
自学やグループ学習やゼミ・
卒論等でのプレゼンの場として
気軽に利用してください。
奥の部屋は事前予約可です。
2階カウンターで
手続きを行ってください。



図書館1階は学生証(利用者カード)が無くても自由に利用できます。

インターネットコーナー （2階）

PCは15台。
学内外の図書館の蔵書検索
ほか、各種データベース・電子ジ
ャーナルへのアクセスができます。
印刷も可能で、論文、レポート
作成にご利用ください。
利用する場合はカウンターに学生
証を出して手続きが必要です。



AVコーナー（2階）

視聴覚資料（DVD等）
を視聴できます。
1人用2席、2人用4席が
あります。
利用する場合はカウンターに
学生証を出して
手続きが必要です。



グループ学習室 （3階）



館内の資料を活用しての
勉強会、討論会等を
目的として原則1回2時
間以内で利用できます。
利用する場合は2階カウ
ンターで手続きが必要です。

個人閲覧室（4階）



学習・研究のために
利用できる個室が
7室あります。
利用する場合は2階
カウンターに学生証を出し
て手続きが必要です。

図書館では、
X（旧Twitter）
で情報を
発信しています



電子化の推進



附属図書館長 西岡 誠治

コロナ禍が収束して、社会にリアルなコミュニケーションによる賑わいが戻ってきました。一方で、リモートによる会議や授業の選択肢が増え、距離による障壁がコロナ禍前より随分低くなったように感じられます。太平洋に浮かぶ島国日本の西端に位置する長崎にとって、距離制約が軽くなったことは朗報です。インターネットの普及と電子機器類の発達で、技術的な基盤は以前から整っていたのですが、それがコロナ禍によって一挙に進展したのです。

そのような時代感覚をふまえて、この図書館よりも、紙版を廃止して電子版に一本化することにしました。昨年度からデザインや内容の改善を進めて来ましたので、その印象を学生に尋ねたところ、一定レベルの評価はしつつも、読みにくいという声が複数寄せられました。その背景として、学生の多くが図書館だよりをスマートフォンで読んでいることに気づかされました。これまでの紙印刷を基本にした図書館だよりの在り方に、時代遅れを感じた次第です。

当初は電子版と紙版の併用も考えましたが、中途半端になりますので、電子版に統一しスマートフォン画面で読みやすい構成・デザインとなるように努めることとしました。

いかがでしょうか、皆様のお眼鏡には叶いましたでしょうか？

今回が初の完全電子化となりますので、未熟な点多々あろうかと思えます。お気づきの点をお寄せいただければ、次号に反映したいと考えます。またこの経験を、図書館全体の取組みにも活かしていければ、とも考えています。



今年度も図書館を
よろしくお願いします

デザイナーより ひとこと



公共政策学科4年の村井雅です。

前回秋号の表紙デザインに引き続き、この度全体のデザイン及び監修を担当させていただきました。今回は、初めての電子版導入ということで、新しい取り組みに関わることのできる嬉しさもありつつ、不安も大きい製作でした。

今回のデザインのテーマは「佐世保」と「ときめき」です。新しい場所、新しい環境というドキドキした気持ちフレッシュな気持ちをビビットカラーで表現しています。

最後になりますが、西岡先生はじめ、図書館だよりに関わってくださった全ての方に御礼申し上げます。

デザインやイラストで、長崎県立大学や附属図書館に関わりたいと興味を持っていただけたら、ぜひお声掛けください！ご連絡お待ちしております。

公共政策学科4年 村井 雅

長崎県立大学佐世保校附属図書館 〒858-8580 佐世保市川下町123

TEL：0956-47-2191（代表）<https://sun.ac.jp/center/lib/sasebo/>

当館は本学学生以外の方でも県内にお住い、またはお勤めの15歳以上の方は利用できます。

開館時間等は4ページを参照してください。